

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001153		
法人名	有限会社リトルデン		
事業所名	グループホーム おひさまの家		
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡苅田町稲光黒岩1130-1 (電話)0930-25-8886		
評価機関名	北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(平成19年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 16人	非常勤 人 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物形態	併設	単独	新築	改築
建物構造	木造平屋 造り			
	1階建ての	階	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 期間24ヶ月	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日1100円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2		4名	
要介護3	3名	要介護4		4名	
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82.5歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小波瀬病院 南クリニック 筒井病院 片岡歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上、後ろに山を抱え、前は民家が点在するのどかな田園風景の中にグループホーム「おひさまの家」がある。周りには、消防署や警察署、公民館等があり、のどかな風景にマッチするようにホームの中も穏やかであり、利用者も職員も共にゆったりと時を刻んでいる。開設から4年、施設長や職員の地道な努力により地域の中にしっかりと根を下ろし地域の一人としての生活が営まれている。施設長は「家族は同志である」という考えで、家族との連携も密であり家族から信頼を得ている。また、職員は施設長の考えをしっかりと理解し、全職員が一緒に利用者の自信が取り戻せるように支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点での取り組みに関して 情報の共有のための取り組みが改善中であるが、確実な申し送りと情報が伝わったというサインが望まれる。 災害の実地訓練がまだ実施されていないが、今年度は実施する予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んでいる。また、外部評価の結果は毎年、市町村に報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族、地域住民、行政職員の参加で実施している。議題はホームの報告や具体的な取り組みへの協力体制についてなどである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法:運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は1年に2回開催されている。家族会開催時に家族の意見や苦情を聞き、活発な意見交換が行われ運営に反映している。権利擁護に関しては研修会の参加、伝達研修が行われ、説明できる体制で、資料もそろっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、密である。隣組の行事に積極的に参加し、今では行事の運営に関して頼りにされている。又散歩の時を利用し、ホーム独自にカン拾い等を行い地域の清掃に一役買っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「地域との交流を大切にする」「個性を大切に安らぎと活力のある環境づくりを目指す」という地域の中でその人らしく暮らす大切さを考えて作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで全員で唱和し理念の共有を図っている。月1回の会議時にも意見交換を行い実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設4年目で施設長や職員の努力により、地域に根ざした取り組みが出来ている。老人会や地域の行事への参加、又散歩時のカン拾いなど地域から頼られる存在になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員も参加し全員で行った。また、3ヶ月ごとに個人の自己評価を行い、改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、家族、地域、行政など幅広い方の参加を得、具体的な意見が出ている。訪問日も運営推進会議が開催され議題の一つに地域の方の参加による災害の実地訓練になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や社会福祉協議会による研修会などには積極的に参加し、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し、ホーム内では伝達講習を行っている。必要な方には説明できると共に相談先や資料もそろっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族会が結成されていて、年2回の家族会で報告が行われている。ホーム便りの日常の報告、金銭管理に関する報告など定期的な報告が行われている。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に話を聞いたり、介護相談員の受け入れなど家族が意見や苦情を言える機会を設けている。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少ない。2ユニット間の異動はあるが行事など合同で行い馴染みの関係が出来ている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の採用は年齢や性別の制限はない。3ヶ月の研修期間の後、施設長、管理者、本人との三者面接で決定している。職員の自己実現に関しては、本人の希望を出来るだけ聞き、勤務ローテーションを組んでいる。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>個人情報保護に関する研修会は、ホーム内で行っている。人権教育・啓発活動に関しては市町村と連携し実施する予定である。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外での研修は、受講できる体制をとっているが、人員の関係で多くの人の受講は難しい。伝達研修は行っている。</p>		<p>年間計画を立て、勤務ローテーションを工夫し、職員の段階に応じた研修が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム連絡協議会を作り、定期的な勉強会や意見交換会を行いサービスの質の向上を目指している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	3泊4日の体験入居を実施している。入居後も馴染めるような暫定プランを立て、家族とも話し合いながら本人のペースに合わせて馴染んでもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に過ごしながら、一人ひとりの能力が発揮されるように工夫し、利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の献立は利用者と職員が話し合っ決めて、家族の要望を細かく聞きとり、利用者一人ひとりの希望に応える努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、職員とカンファレンスを行いながら意見を出しあって作成している。入居後1週間、3ヶ月、6ヶ月と段階的に作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しをしている。日々の生活の中で状態変化が見られたら関係者と連絡を取り合い、その都度見直している。常にホウ、レン、ソウ「報告、連絡、相談」を基本にして変化に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に柔軟に対応し、外出、通院、外泊、家族の宿泊など利用者一人ひとりの要望に応え、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望のかかりつけ病院の受診を支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医との話し合いで終末期のあり方について話し合っている。出来るだけ最後までホームでという思いで施設長、管理者、職員は日々努力している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士でモラルアップを意識し、利用者に対して尊厳と優しい見守りで支援している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりから思いを聞き取り、温かいコメント付の日課表を作成し、一人ひとりが安心して穏やかに暮らせる支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員と一緒に献立を立てている。入居者、職員が同じテーブルで同じものを楽しみながら食し、介助の必要な方にはさりげない支援が行われている。箸、湯のみは使い慣れたものが使用されている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回であるがユニットごとの曜日を変えた入浴も出来るような柔軟な対応が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から、できることや楽しみを見出す支援がなされている。料理の手伝い、後片付け、盛り付けなど楽しみながら行われている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物など希望に添って行われている。散歩の途中には月1回、地域のカン拾いもかねて実施し、地域の清掃に一役買っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が鍵をかけることの弊害を理解し、鍵はかけていない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回ホーム独自の防災訓練をしているが、地域の人との協同訓練にはなっていない。		消防署や地域の方との昼夜を想定した実地訓練が望まれる。地域の中に根づいたホームであるため協力が得られると思われる。特に夜間の災害に際しては地域の方の協力は不可欠である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と一緒に考え希望を取り入れたものになっている。施設長が栄養のバランスを考え、また、水分はいつでも飲めるようお茶の準備がしてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると季節感いっぱいの花や、大きなカレンダー、見やすい時計、居間には座り心地の良いソファ、窓からの眺めは田園風景が広がり、季節の良いときは窓をいっばいに空け、自然の風が吹き抜け、利用者は居心地良く過ごしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたもの、入居者の趣味の作品など居心地良く過ごせる。持ち込まれた家具の配置など家族と相談の上自宅と同じ配置にするように心がけている。仏壇を持ち込まれている利用者もいる。		